



要点 1 漢字の種類・部首

【解答】

1 次の(1)~(4)についての説明として適切なものをあとのア~オからそれぞれ一つずつ選び、□に記号で答えなさい。また、それぞれの種類にあてはまる漢字を、□の中から三つずつ選んで()に書きなさい。

(1) 象形文字	オ	牛	鳥	門
(2) 指事文字	ア	刃	本	小
(3) 会意文字	ウ	炎 <small>火+火</small>	困 <small>口+木</small>	岩 <small>山+石</small>
(4) 形声文字	エ	泉 <small>水+艸</small>	枯 <small>古+木</small>	導 <small>道+辵</small>

- ア 位置や数など形のない物事を、点や線などで表した記号からできた文字。
 イ 本来の意味から転じて生まれた新しい意味が加わった文字。
 ウ 二つ以上の漢字を組み合わせ、それぞれの漢字がもつ意味をもとに、新しい別の意味を表すように作られた文字。
 エ 音を表す部分と、意味を表す部分とで組み立てられている文字。
 オ 物の形をかたどった絵がもとになってできた文字。

牛	線	炎	刃	困	鳥
岩	枯	本	小	門	導

2 「仮借文字」として使われているものを次のア~エの中から一つ選び、記号で答えなさい。
 仮借Ⅱ仮に音を借りた文字

- ア 時間・空間
 ア 伊太利・独逸
 イ 楽ヲク天家・憎ソウ悪
 エ 眼鏡・一日

ウ

3 次の各組の部分に、それぞれ共通してつけることのできる部首を□に書き、下の()にその部首の名前をひらがなで書きなさい。

(1) 岡 貝 半 害	リ	りつとう	「刃」に関する意味を表す部首。
(2) 市 未 台 少	女	おんなへん	「魔」の部首だからまだれと覚えて「尸」(がんだれ)と区別する。
(3) 軍 米 余 貴	辵	しんにょう	
(4) 車 付 予 木	广	まだれ	
(5) 合 相 同 寺	竹	たけかんむり	

4 次の漢字の部首名は何ですか。それぞれひらがなで書きなさい。

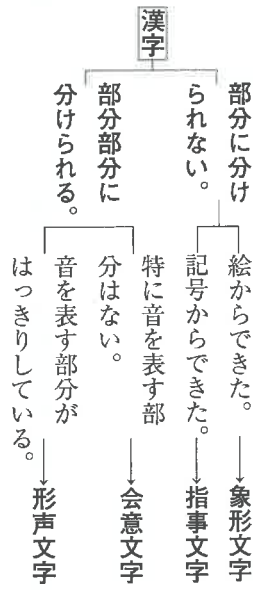
(1) 然	れんが・れつか	(2) 礼	しめすへん
(3) 難	ふるとり	(4) 亡	なべぶた けいさんかんむり
(5) 回	くにがまえ	(6) 限	ござとへん
(7) 郷	おおざと	(8) 罪	あみがしら あみめ・よこめ
(9) 街	ぎょうがまえ ゆきがまえ	(10) 腰	にくつき
(11) 補	ころもへん	(12) 憲	こころ・したごころ
(13) 菓	くさかんむり	(14) 稿	のぎへん



【解説】

要点 1 漢字の種類・部首

1 「六書」のうち、成り立ちで分けた四種類の識別問題。それぞれ、どんな文字なのかは記憶しておかねばならない。特に象形文字と指事文字、会意文字と形声文字は互いに混同しやすいので、違いをはっきり覚えておく。



「象形」 || 「形を象る」 || 「指事」 || 「事柄を指し示す」
「会意」 || 「意味を出会わせた」 || 「形声」 || 「声(音)を形す」と、熟語の意味から種類の内容をとらえることもできる。

3 ミスポイント 「刃」と「本」は、「刀」「木」に位置を表す線を付け加えたもので、指事文字。



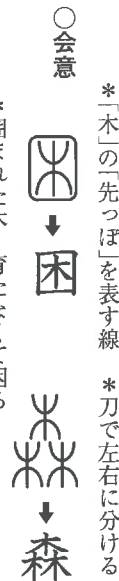
「本」は木と丁を合わせたもので、会意とする説もある。「炎」「困」「岩」などは会意文字であるが、部分部分が象形文字なので分類を誤りがち。一つの漢字を上下・左右・内外などに分けられるなら会意か形声、と覚える。

参考

いろいろな漢字のもの



○指事 中 ↓ 末 八 ↓ 分



2 「仮借文字」とは「六書」のうち、使われ方による分類の一つで、漢字本来の意味(本義)とは全く関係なく、ただその音だけを借りて、別の言葉を表すときの使われ方をいう。すなわち、あて字的な使われ方。外国の物や外国の国名を表すのによく用いられる。

Aは普通の読み。イは転注文字(本来の意味(本義)から転じてほかの意味を表すようになったもの)の例。エは熟字訓の例である。

3 部首という「偏」や「旁」が思い浮かぶが、このほかにも「冠」「脚」「構」「繞」「垂」と、全部で七種類の部分がある。各組の部分が漢字のどこにあてはまるのか、七つの可能性を想定することが解答への早道である。つく部首の見当がいたら、必ず四つの部分すべてに同じ位置でつくかを確認すること。

(1)の「リ(りっとう)」は「刀」からできた形で、切ったり刻んだり分けたりする意味を表す。(2)の「女(おんなへん)」は女性的なもの、女性的なやわらかさに関係のある文字を作る。(3)の「辶(しん)」「辵(しん)にゅう」は、行くことや遠近に関する意味をもつ。(4)の「宀(まだれ)」は建物の屋根の形。(5)の「木(たけかんむり)」は竹や竹製の用具に関する文字を作る。

参考

同じ部首の漢字でできている熟語の例

- 姉妹(おんなへん) ・ 感想(したごころ)
- 祝福(しめすへん) ・ 葉草(くさかんむり)
- 往復(ぎょうにんべん) ・ 客室(うかんむり)
- 運送(しんにょう) ・ 開閉(もんがまえ)

1 部首には、形が似ているもの、同じ形でも位置によって呼び名が変わるものなどがあるので区別に注意する。

ネ(しめすへん) ↓ 「示」がもとの形で、「神」に関する意を表す。例 社神福祉祝祖など。
ネ(ころもへん) ↓ 「衣」がもとの形で、衣服に関する意を表す。例 複補被裸など。

阝(こざとへん) ↓ 丘・盛り上がった地・高所の意を表す。例 院階階陽限防など。
阝(おおざと) ↓ 人の住む地に関する意を表す。例 都部郡郷郵など。

彳(ぎょうにんべん) ↓ 行くことに関する意を表す。例 後役徒往従御など。
行(ぎょうがまえ) ↓ 道路・街に関する意を表す。例 行街衛術衛術

月(つきへん) ↓ 「舟」の変形。例 服朕。
月(にくつき) ↓ 「肉」の変形。人の体に関する意を表す。例 腸脈肥胸臍肺など。

- 隹(れんが・れつか) ↓ 小鳥の形からできた。
- 隹(ふるとり) ↓ 小鳥の形からできた。
- 亼(なべぶた) ↓ なべのふたの形をかたどったもの。
- 宀(あみがしら・よこめ・あみめ) ↓ あみの形。

要点 2 漢字の筆順・熟語の読み方

【解答】

1 次の(1)～(10)は、漢字とその筆順を示したものです。それぞれの筆順が正しければ○、誤っていれば×を□に書きなさい。

(1) 巨	一 二 三 巨	×	(2) 再	一 一 一 再 再	×
(3) 舟	ノ 冫 冫 舟 舟	○	(4) 極	木 木 朽 極 極	○
(5) 版	ノ 一 一 一 版 版	○	(6) 吸	丨 丨 丨 吸 吸	×
(7) 希	一 一 一 希 希	×	(8) 帯	丨 丨 丨 帯 帯	×
(9) 忙	丨 丨 丨 忙 忙	○	(10) 減	丨 丨 減 減	○

2 次の(1)～(12)の漢字の、太線の部分は何画めに書きますか。それぞれ数字で答えなさい。

(1) 報	10	(2) 馭	1
(3) 濟	11	(4) 蒸	6
(5) 玄	4	(6) 冊	3
(7) 批	6	(8) 属	10
(9) 赴	8	(10) 卵	4
(11) 黄	7	(12) 密	6

「由」は「田」の発展。

「走」は先に書くに「よ」。よ。

へんになっても「馬」の筆順は同じ。

「必」の筆順がポイント。

3 次の(1)～(4)のア～エの熟語には、それぞれ一つだけ読み方の音訓の組み合わせが他と異なるものがあります。それはどれですか。記号で答えなさい。

(1) ア 気軽	イ 名刺	ウ 芸術	エ 就寝
(2) ア 額縁	イ 仕事	ウ 曜日	エ 眠気
(3) ア 雪国	イ 居間	ウ 株式	エ 腕前
(4) ア 野宿	イ 地主	ウ 身分	エ 場所

4 次の(1)・(2)にあてはまる読み方をする熟語をあとのア～コから三つずつ選んで記号で答え、下の()にその読みもひらがなで書きなさい。

(1) 重箱読み	ア	(やくば)	キ	(えきまえ)	コ	(もくめ)
(2) 湯桶読み	ウ	(ゆうかん)	オ	(やちん)	ケ	(にだい)

5 次の(1)～(12)の熟字訓の読みを、ひらがなで書きなさい。

(1) 清水	(しみず)	(2) 七夕	(たなばた)
(3) 景色	(けしき)	(4) 五月雨	(さみだれ)
(5) 小豆	(あずき)	(6) 土産	(みやげ)
(7) 真っ青	(まっさお)	(8) 名残	(なごり)
(9) 果物	(くだもの)	(10) 息子	(むすこ)
(11) 足袋	(たび)	(12) 吹雪	(ふぶき)

ア 役場 イ 傾斜 ウ 夕刊 エ 小石 オ 家賃 「役」は音。
カ 内側 キ 駅前 ク 豆腐 ケ 荷台 コ 木目 「家」は訓。

キがる＝重箱・他は音+音。

わむケ＝湯桶・他は重箱。

かぶンキ＝湯桶・他は訓+訓。

ジぬし＝重箱・他は湯桶。



【解説】

要点 2 漢字の筆順・熟語の読み方

1 それぞれの正しい筆順を知っておきたい。

(1) 「区」は「又区」と横から先に書くのに対し、**巨**は

縦が先。これは一般の「構」の筆順と同じ。左側の縦画を先に書こう。

(2) 「田」の発展したもので、縦から書く。

(3) つらぬく**横画は最後**、という原則にのっとっている。

(4) 「畝」の部分は「中央から」という原則にのっとっている。中が少し複雑でも、中と左右からなる部分は中央から書く。

(5) 「片」の二画め以降は「上から下へ」の大原則にのっとっている。

(6) 「乃」や「及」は「丿」が先。

(7) 「一」が先。

左右の払いが交差する場合は左払いを先にすると同じに考える。

(8) 「一」が先。*横が一画め。

横画と縦画が交差するときは、縦が三本以上でも、横から書く。

(9) りっしんべんは中と左右からなる形だが、**書き順は中を最後に書く**。

(10) 右肩の「、」は最後に書く。

2 文部省が採用する筆順で数えたものを正解とする。

(1) 「報」「服」の「艮」は「㇀」の順。

(2) 「馬」は縦画が一画め。「うまへん」になっても同じ。

(3) 「済」の「月」は左から右へ「丿」で書く。

(4) くさかんむりの下は、中と左右からなる部分なので「了」で承「…」と書く。

(5) 「糸」を「㇀」で6画で書くのに準じ、「玄」は「一」で書く。

(6) 「冊」の「冂」のあとは、交差する横画と縦画なので、縦それも左側のほうから書く。

(7) 「比」は、活字では「匕」で書くが見えるが、「匕」と書く。

(8) 「尸」のあとは「尸」で書く。

(9) 「走」(そうによう)は、中身より先に書く。

(10) 「卵」は「卵」の順で書く。

(11) 「黄」は「田」の発展したもので、「田」の順で書く。

(12) 「密」の中の「必」の書き順がポイント。「必」の順で書く。

3 漢字の音訓を見分け、その組み合わせをとらえる問題。

選択肢の語の読みと音訓の別を示しておこう。(訓は平仮名、音はカタカナで表記する。)

(1) ア キがる イ メイシ ウ ゲイジユツ エ シ ユウシン

(2) ア ガクぶち イ シごと ウ ヨウび エ ねむ ケ

(3) ア ゆきぐに イ いま ウ かぶシキ エ うで まえ

(4) ア のジユク イ ジぬし ウ みブン エ ばシヨ

ミスポイント 「野(の)」や「場(ば)」のように、一音節で送り仮名のつかない訓読みは、音読みと誤りや

すい。音は固く訓はやわらかいという語感の違いに気づくと共に、辞書等での確認も望まれる。

1 「重箱読み」は音十訓、「湯桶読み」は訓十音。2 同様にア〜コの読みを示しておく。

ア ヤクば イ ケイシャ ウ ゆうカン エ こいし オ ヤチン カ うちがわ キ エキまえ ク トウフ ケ にダイ コ モクめ

3 熟字訓の問題。熟字訓は覚えるしかない。慣用的な読みなので日常的に耳になじんでおり、案外正しく読めるものである。未知のものは判じ物的な楽しみもある。とにかく覚えよう。なお、「熟字訓の読みを」という問いなので(2)を「ななゆう」(6)を「どさん」などと答えても当然不可である。

コーヒー・タイム

クイズ(熟語の輪)円の中に入る漢字を考えよう。



外側の字のどれとも矢印の向きに結びつき、二字熟語となる漢字です。

答 1方2声3雨